

YOTSUKAIDO ARTIST EXHIBITION

四 街 道 市

郷土作家展

第20回記念

主催：四街道市美術協会 / 四街道市教育委員会

四街道市 第20回記念 郷土作家展

絵画(日本画・洋画) / 工芸・彫刻 / 書道



四街道市の花「サクラソウ」

会 期	平成22年11月23日(火)～28日(日)
出 品 者	四街道市美術協会会員
会 場	四街道市文化センター(2階)
主 催	四街道市美術協会・四街道市教育委員会



ごあいさつ

四街道市美術協会会長 池田 薫

四街道市郷土作家展が、今回で20周年を迎えます。それを記念し出品作品の図録を作ることになりました。

20年と言うと、それが長いのか、短いのか。こどもが生まれて、ああやっと成人式を迎えたか、と思えば長いようでもあるし、もうこんな歳になったのか、早いものだという思いもあるでしょう。

四街道市郷土作家展は、最初、生涯学習事業として始まったというお話ですが、私は第2回より出品させていただいたとおもいます。場所は市の文化センターでした。6回からは市民ギャラリーに移りましたが、この間に四街道市美術協会が設立されました。私は工芸部門からの理事として参画させていただきました。

初代の会長は歌人の加倉井只志先生でした。そして、二代目は日本画の齊藤惇先生、続いて工芸の井高洋成先生、彫刻の上野弘道先生、洋画の森優先生と、いずれも見識豊で四街道市の芸術、文化活動に深く貢献されました。また、理事長として犬飼圭堂先生、六車石露先生、さらに歴代の事務局長の方々が活躍されました。しかし、加倉井・齊藤・上野の三先生はすでに亡く、それは美術協会にとって大きな痛手となりました。特に上野先生は在任中に亡くなられ、会員のみならず多くの方々にとって大変なショックでした。

20年の内に社会は大きく変わりました。第1回郷土作家展が開かれた1991年は、日本のいわゆるバブル経済が崩壊した年です。その後、多少の景気の変動はあっても、全体的には日本経済は低迷し、戦後日本が苦労して作り上げてきた仕組みがうまく働かなくなった時代です。そして、それは今も続いています。

そういう中であって、郷土作家展も美術協会も亡くなられた方、辞められた方……いろいろありました。

美術協会という組織は立派になりました。しかし、我々を取り巻く状況は大きく変わりました。状況の変化により組織や仕組みも変わっていかねばなりません。「脱皮せざる蛇は滅ぶ」、これはニーチェの言葉です。

合わせて、中味が問題です。額に合わせて絵を画くのではなく、出来上がった絵に合わせて額は決まります。より重要なのは中味です。中味是我々会員の努力によるしかありません。

四街道市郷土作家展が20周年を迎え、人間で言えば成人式の歳ですが、これからどんな大人に成っていくのか、あまり無理をせず身の丈に合った努力を続けて参りたいと思います。

最後に今までお世話になった関係機関及び多くの方々へ深く感謝申し上げますと同時に、また、今後とも御指導、御鞭撻、御支援の程よろしくお願い申し上げます。



ごあいさつ

名誉会長 四街道市長 佐 渡 齊

郷土作家展が第20回を迎えられましたこと、誠にめでたうございます。四街道市美術協会の皆様方におかれましては、その活動をとおりて四街道市の芸術文化の発展に大きくご貢献いただき、衷心より敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

今後も、より多くの市民が身近な所で芸術文化に触れる機会を得られるよう、地域に根差した活動をとおりて当市の芸術文化の発展にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

そして一人でも多くの方が芸術・文化に親しみ、心豊かな魅力ある街づくりを実現するため、芸術文化の振興を長期にわたって継続していかなければならないと存じます。

結びに、四街道市美術協会の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、お祝いの挨拶といたします。

《協会の歩み(概略)》

- | | |
|--------------|---|
| 1991年(平成3年) | 市の生涯学習事業として第1回四街道市郷土作家展
10月26日～28日 会場：市文化センター会館棟 |
| 1993年(平成5年) | 四街道市美術協会誕生、設立総会
9月5日 会場：四街道公民館 |
| 1997年(平成9年) | 市民ギャラリーオープン記念事業として四街道市美術協会展
5月1日～11日 会場：市民ギャラリー |
| 2000年(平成12年) | 第10回記念郷土作家展
10月24～29日 会場：市文化センター会館棟 |
| 2007年(平成19年) | 四街道市美術協会「15年の歩み」記念誌発行 |
| 2010年(平成22年) | 第20回記念郷土作家展
11月23～28日 会場：市文化センター会館棟 |

第20回記念展 出品者名簿

絵画 (日本画)

江	澤	典	子	小	等	洋	子	小	川	夕	星
金	木	正	子	國	安	ひ	ろ	中	井	静	子
成	田	玲	子	新	見	正	子	檜	貝	富	美
古	見	公	子								子

絵画 (洋画)

伊	藤	健	二	岡	田	順	夫	金	田		昭
楠	岡	和	英	越	川	美	佐	樓	井	邦	彦
杉	浦	勝	彦	杉	本		真	中	井	揚	一
永	野	洋	子	西	岡	と	し	平	野	二	十
福	田	利	明	深	山	護	之	宮	本	和	彦
宮	原	一	次	森		優					

工芸・彫刻

池	田	薫	櫻	井	邦	彦	中	西	宣	雄
西	岡	美	白	井	直	子				
		千								
		代								

書 道

井	岡	廣	實	大	飼	主	堂	小	川	照	美
梅	田	翔	風	梶	谷	綾	泉	梶	原	碧	川
神	門	若	翠	木	下	洛	山	九	貫	美	舟
杉	本	翠	松	鈴	木	雅	泉	鈴	木	華	芳
鈴	木	漢	舟	清	宮	白	鏡	高	尾	辛	竹
田	中	春	苑	下	理	彩	舟	寺	田	榮	子
長	澤	鴨	舟	成	田	相	扇	藤	井	雅	紅
藤	尾	恵	竹	古	橋	紅	舟				

造 作

齊	藤		倅	黒	澤	占	蔵	上	野	弘	道
三	宅	策	郎								



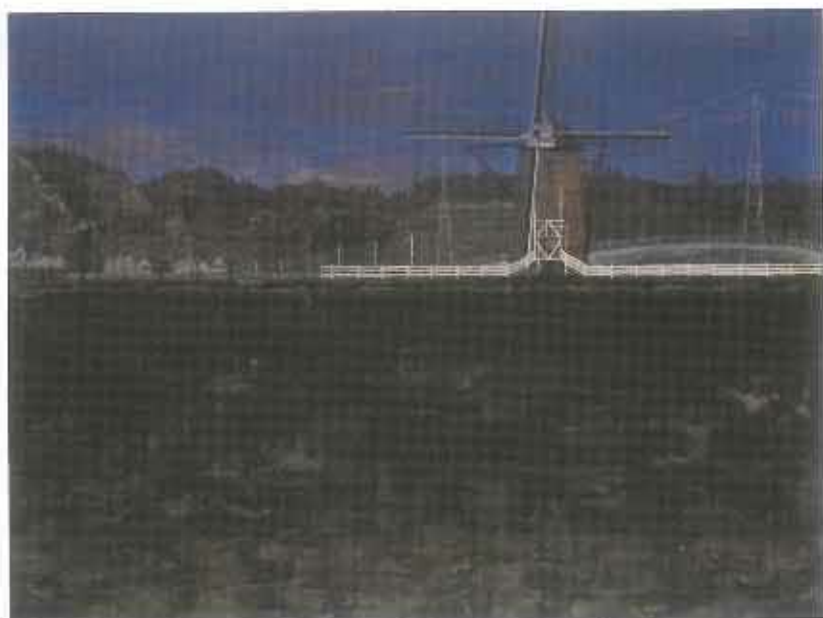
鳥渡
江澤典子
101×73



山嶺心図Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
小川夕星
93×549



青色
小笠洋子
83×100



喜れる
金 木 正 子
97×130



天空の彼方に
國 安 ひ ろ
103×90



実りの頃
中 井 静 子
92×117



秋海堂

成田 玲子

50×45



作品10-3

新見 正子

118×82



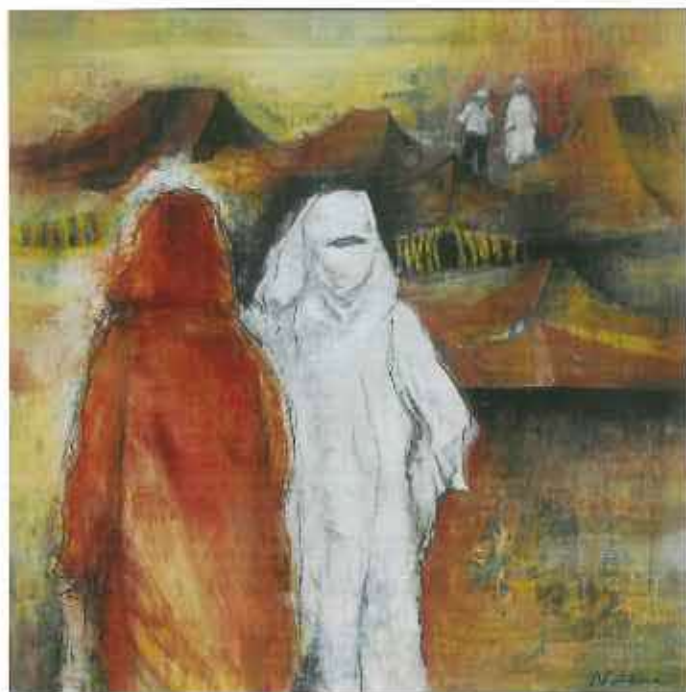
光の都市

吉見 公子

189×265



フランスの月
榎貝 富美子
102×52



メデイア旅
岡田 順夫
116×116



島下湾
伊藤 健二
130×180



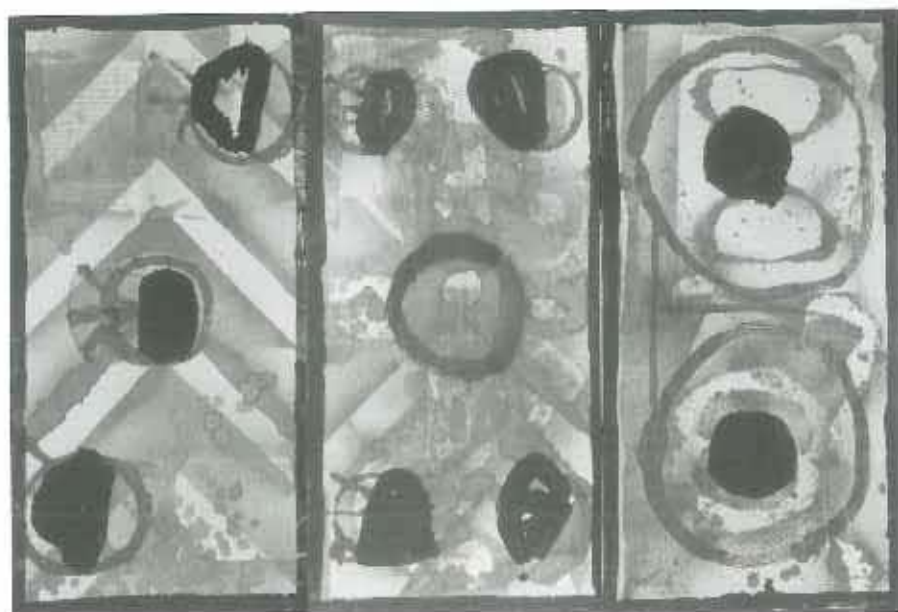
初秋の真入湖
金 田 昭
91×117



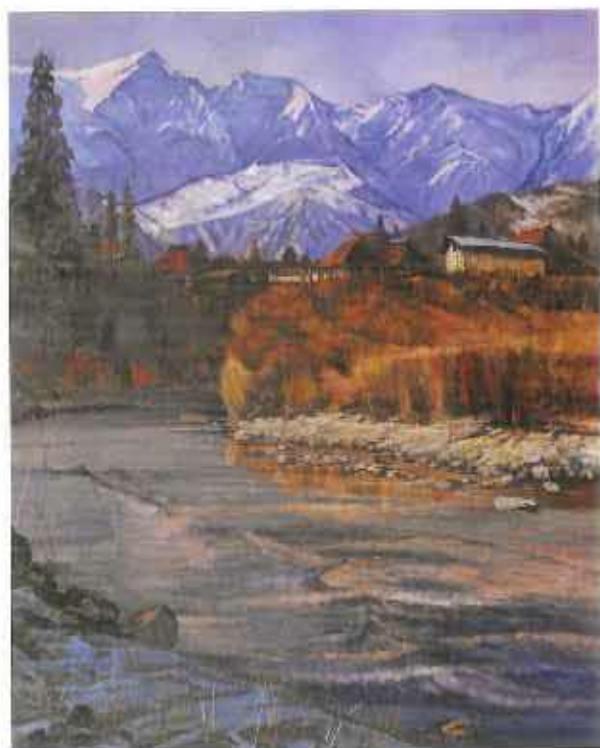
ラベンダーの七月
楠 岡 和 英
92×118



ハイビスカスの恋
越川美佐子
46×53



平和(銀座)
櫻井 邦彦
180×270



残照
杉浦 勝彦
227×182



子をとられ、すけとう干され
杉本 薫
60×80



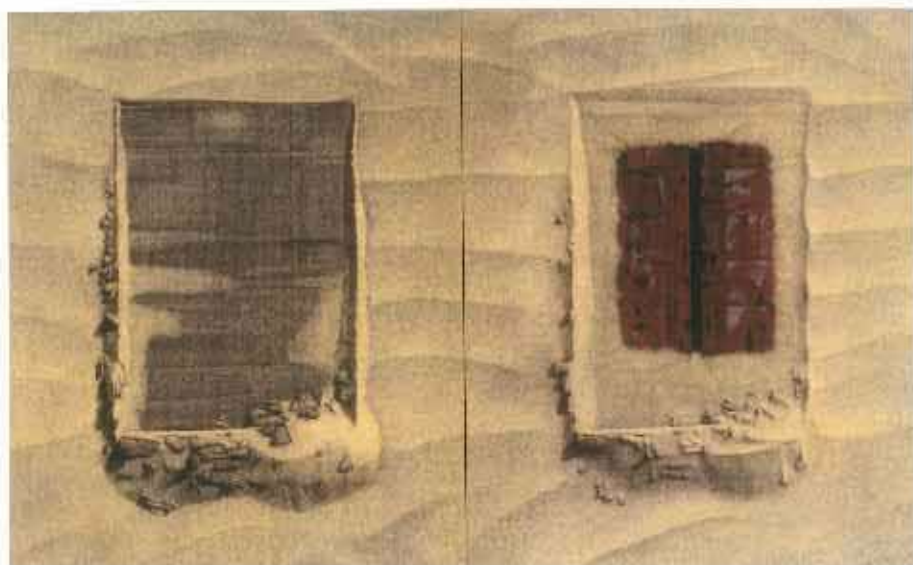
ブルージュの秋
中井 揚一
91×117



好奇心
永野 洋子
117×91



桜道
西岡とし子
100×80



時間のしぐさ
—another phase—
福田 利 明
162×264



ダイヤモンド
深山護之助
42×58



MORNING
平野二一ナ
40×48



コンポジション
宮本和彦
91×117



白鳥のト志津原
森 優
82×218



訪春車鞍
宮原 一 次
72×90



浜辺の静物
池田 薫
50×100×15



恐るるな危険!!
櫻井 邦彦
15×36×30
25×23×53
25×27×50



3/5
中西 宣雄
15×15×40
20×20×60



うたかた
西岡美千代
20×20×60



こもれ日の中で
白井直子
45×60×95



應筆斗白

井岡廣實 52×152



月下獨酌(李白詩)

犬飼圭堂 240×100



孔子廟堂記

梅田翔風 135×72

道風中

木々の言を承けし

小川

道風(小川町を以て)

小川 照美 120×30



梶原 碧川 180×90

文曰既飲白酒以介眉寿蓋受其福既已大康後永享其福

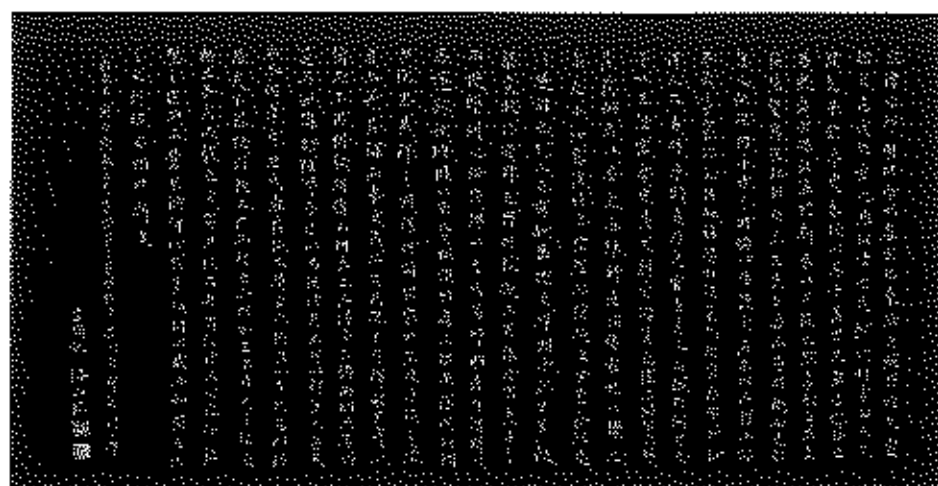
梶谷 綾泉 240×80

既飲白酒以介眉寿蓋受其福既已大康後永享其福



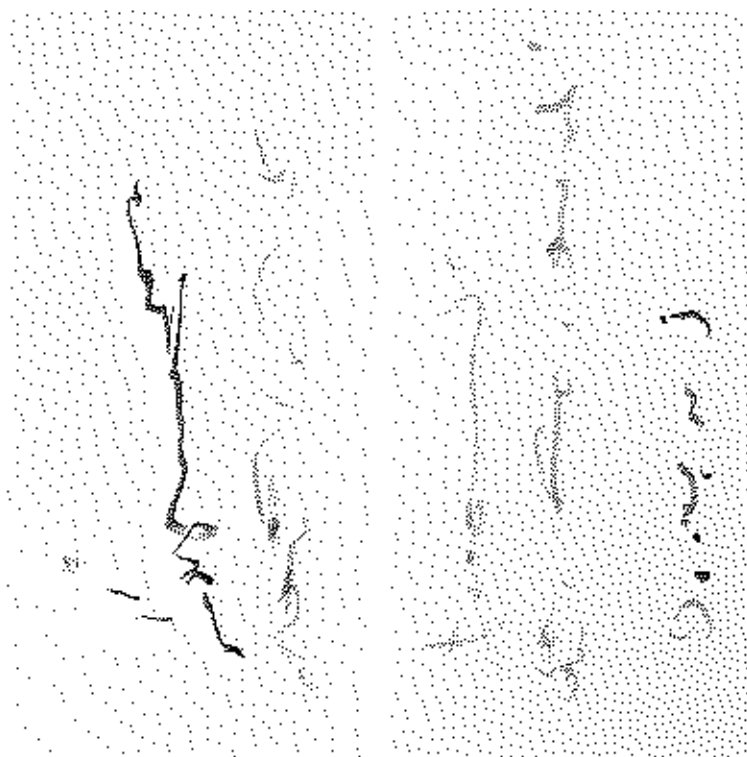
神 門 斎 翠 70×135

秋は来ぬ
松は来ぬ
竹は来ぬ
梅は来ぬ
桜は来ぬ
夏は来ぬ
春は来ぬ
冬は来ぬ



木 下 洛 山 59×169

立役歌



九 貫 美 舟 135×116

二八五〇

福野

朝霧

朝霧

朝霧

白鷺の

城

白鷺の城

杉本翠松 33x35

讀海方原之志也而志氣高峻中極其
應見是書未盡其意也故將此書
日而錄其意也海潮如舟中極其
既不平以平以平故其不平人也

白鷺の城

鈴木華芳 175x45

月夜下志氣高峻中極其
應見是書未盡其意也故將此書
日而錄其意也海潮如舟中極其
既不平以平以平故其不平人也

白鷺の城

鈴木雅泉 236x60

大地の沈黙

大地は
息を
止めて
沈黙を
守る
静けさ
を
感じる
秋の
静けさ
を
感じる

大地の沈黙(横書第二)

田中春苑 90×180

秋の静けさ
を
感じる
大地の
沈黙を
守る
静けさ
を
感じる

秋の静けさ(法帖)

玉理彩舟 136×104

蘇軾詩集卷之三 題語字已百中 齊魯帥白希賢編萬屋羅口而歸并樂對
聖高玄趙前婦綱中自勝應篇百理編端起現站席樂時義將對聯諸三市諸華
誕發詩雲題臨掌肥續市爾紀舌萬兩鄰而望南止聖百認日府經濟四座臥騎
今辭古煙最能聖張臣市爾內子離新響齊齊靈精及趙興題題題題題題
詩聯聯聯聯王博地是已而尚新禪曉靈陽而臨臨臨臨臨臨臨臨臨臨臨臨

敬中八世改

寺田榮子 150×52



長澤 陽舟 75×110

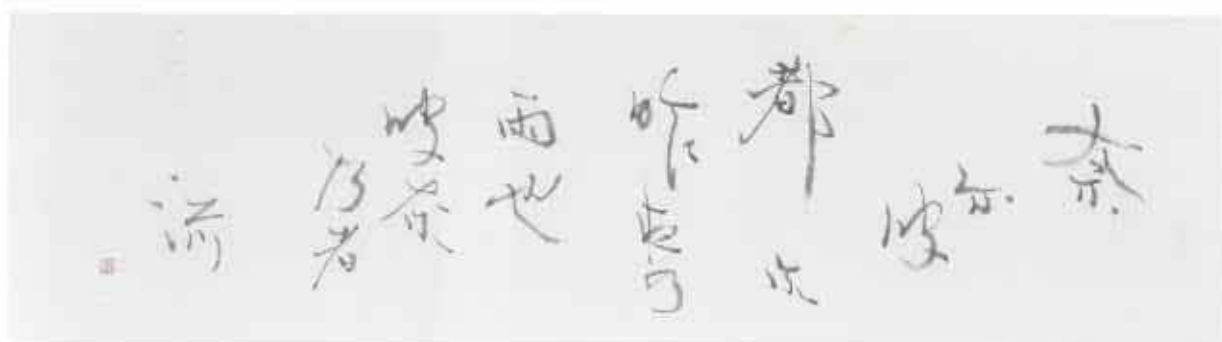
秋
十
六

老名悲妙後自寬無來
 之身大衆之精珍彼是味
 相與時方人為正冠嚴水
 遠從平溜名金山高世為
 年之有以此會江海佳
 殊絕美筆子細音其時時

六三(村田)

藤井 雅紅 60×108

花の香（波菜（ハナカサ））



藤 尾 恵 竹 180×45



又市陽

吉 橋 紅 舟 70×137



幸の仲間と一法仙の歌

成 田 相 扇 45×50



瀬戸の十字架

斉藤 惇

46×53



無題

上野 弘道

16×15×50



ワイグル族の老翁

三宅 策郎

42×33



比叡桜

黒澤 吉蔵

38×40

(被称略)

平成22年度四街道市美術協会役員

(順不同)

名誉会長	佐渡 齊						
顧問	井高 洋成	犬飼 圭堂	森 優				
会長	池田 薫						
副会長	櫻井 邦彦	井岡 廣實					
事務局長	梶谷 綾泉						
事務局次長	福田 利明	宮原 一次					
会計	西岡 とし子	金木 正子					
理事							
【絵画】	江澤 典子	金木 正子	櫻井 邦彦				
	西岡 とし子	福田 利明	宮原 一次				
	宮本 和彦						
【工芸・彫刻】	池田 薫	中西 宣雄					
【書道】	井岡 廣實	梶谷 綾泉	九貫 美舟				
	清宮 白鷺	高尾 幸竹					
【監事】	古見 公子	鈴木 華芳					

第20回記念展実行委員

実行委員長	福田 利明 (絵画)		
実行副委員長	梶谷 綾泉 (事務局長)		
実行委員	理事全員		
部門対応責任者	日本画：江澤 典子	洋画：櫻井 邦彦	
	工芸・彫刻：池田 薫	書道：九貫 美舟	

第20回記念展図録編集委員

編集委員長	梶谷 綾泉 (書道)		
編集委員	井岡 廣實 (書道)	中西 宣雄 (工芸)	
	宮原 一次 (絵画)		

● 編集後記 ●

四街道市郷土作家展第20回記念として出品作品の図録を作ることや、4月の臨時理事会で決定され、編集委員4人での打ち合わせが始まりました。

10月18日、文化センターにて図録作成のための撮影が実施され、次々と運ばれてくる作品の大作に私自身感動しました。

今年は例年になく猛夏で、創作には辛苦のつきまとう作業となりましたが、絵画部門27人、陶芸・彫刻部門5人、書道部門28人合わせて55人の会員が、記念展に相応しい力作の発表が出来たと思います。なお編集上の都合により掲載は順不同になりましたことをご了承下さい。

その諸々の作品を収録編集にあたり、その作品の色彩や風合いをいかに近づけるかが課題でした。

図録の表紙に描かれた門環は個の集合体として門になるという心を込めたもので、この図録をとおして作家の思いを感じとっていただき、美術協会の活動とこれから芸術を志す一助になれば幸いです。

美術協会を牽引した今は亡き、絵画部門の資藤惇先生、黒沢吉蔵先生、三宅策郎先生、陶芸・彫刻部門の上野弘道先生方の作品を収録し掲載出来ました事に対し、ご遺族のご好意に深く感謝申し上げます。

美術協会会員、実行委員、教育委員会社会教育課職員の協力の下で、ここに図録が完成したことも皆様にご報告致します。

右難う御座いました。

編集委員長 堀谷綾泉

平成22年11月15日印刷 平成22年11月23日発行

発行者 四街道市美術協会・四街道市教育委員会
四街道市教育委員会社会教育課内
☎ 043 - 424 - 8927

印刷 きんよう印刷

